

声とテキスト論

研究代表者 高 木 裕

1. 分担者

佐藤 徹 朗
城戸 淳
先田 進
鈴木 孝 庸
廣部 俊 也
藤石 貴 代
佐々木 充
金山 亮 太
高橋 康 浩
金子 一 郎
木村 豊
村上 吉 男
平野 幸 彦
斎藤 陽 一
桑原 聡
番場 俊
橋谷 英 子
鈴木 正 美

2. 2006年度の研究活動の概要

(1) 講演会

高木は新潟大学国際（田中）交流基金により（申請研究テーマ「<声>に関する文学理論の共同研究」）、ボルドー第3大学に派遣され、同大学研究プ

プロジェクトグループ「モデルニテ」及び大学院生を前に講演をした。講演後、活発な質疑応答があり、ボルドーのモデルニテ研究グループと人文学部の「<声>とテキスト論」グループとのさらなる研究交流の必要が確認された。研究交流の基盤が構築されたと考える。

日 時 9月14日 14時30分～16時30分
場 所 ボルドー第3大学 Salle B 08
発表者 高木 裕
講 演 Le Texte poétique et la voix (フランス語)

(2) 研究発表

- 「<声>とテキスト論」プロジェクトの研究例会を、現社研プロジェクト「叙事文藝における修辞の研究」との共催で、12月に開催した。15名ほどの参加者があり、活発な意見交換があった。

日 時 12月8日(金) 17時30分～19時
場 所 学際交流室(総合教育研究棟3階)
司 会 先田 進
報告者 鈴木 孝庸
題 目 「平家物語における本文と語り」

- 第2回目の研究例会は、現社研プロジェクト「表象文化の比較総合的研究」との共催で、開催された。

アメリカ詩人ゲーリー・スナイダーの<声>の特質を、その神秘的、東洋的な思想、宇宙との身体的な応答に探ろうとする意欲的な発表であった。

日 時 1月24日(水) 18時15分～20時頃まで
場 所 総合教育研究棟学際交流室
発表題目 ゲーリー・スナイダーにおける声の問題
発表者 高橋 綾子(現社研院生)

3. 2006年度の研究成果の概要

(1) 研究成果の公開としての授業

「人文超域科目C テキスト論研究」として、講義（水曜日の3限）を開講した。「声とテキスト論」プロジェクト参加者から、高木、城戸、平野、鈴木（孝）、木村が参加し、研究分野代表の栗原先生にも加わって頂いた。テキストと〈声〉の関係を中心に、各教員それぞれの領域分野におけるこの問題の特徴をわかりやすく受講生に解説した。

(2) 単著及び紀要論文（次の項を参照）

4. 2006年度の研究成果の一覧

(1) 単著

鈴木孝庸、『平曲と平家物語』新潟大学人文学部研究叢書2，知泉書院，2007年3月，276頁

鈴木正美、『どこにもない言葉を求めて』新大人文選書3，高志書院，2007年3月，188頁

(2) 紀要論文の掲載

「人文科学研究」第120輯への掲載（平成19年3月刊行）。

プロジェクト特集「声とテキスト論」

高木 裕，「特集にあたって — 〈声〉の伝統とテキスト —」

金山亮太，「ディケンズの公開朗読におけるテキストの問題(1)」

村上吉男，「ヴェーユ身体論」

鈴木孝庸，「平家物語巻第七のテキストと〈曲折〉」

Yutaka TAKAGI, Le Texte poétique et la 'voix'